

「つきつめる頻出英語長文」

— 1つの英文で何倍もの効果を上げる戦略 —

小林 功・G Watkins

はじめに

みなさんは、長文あるいは超長文の問題集を学習する時に、問題を解いて、解答合わせをして、間違いを確認してそれで終わりにしていないだろうか。これでは、せっかく問題を解いても、もったいない。大学の入試問題で設問として問われる数は限られている。もし、試験時間がもっと長ければもっといろいろな設問が出されるであろう。つまり、1つの英文の中に是非学習しておくべき語彙、熟語、構法、文法、内容把握などはかなりの数がある。その中のいくつかに関してのみたまたま出題されるだけである。したがって、1つの英文の中に出てくるポイントを網羅的に押さえるだけで少なくとも3つの英文をやっただけの効果が期待できる。

そこで、本書は、通常の入試問題とは別に、別枠でポイントになる箇所を問いという形で確認できるようにしてある。これを解くことで1つの英文を3倍にも活用できたことになる。たったの10の英文であるが、30の英文をやっただけの効果が期待できる。しかも、取り上げられている英文は、どれも最近出題されている英文で、なおかつ最低3回は出題されたことがある英文だけである。したがって、入試レベルの英文としてはかなり質の高い英文だけと言えるので、短期間に最大限の学習効果を当然上げられるはずである。あとは、諸君のがんばり次第である。

2012年12月

編者記す

本書の特長

たとえば、1冊の問題集をやるとする。その場合、ある一定の時間内で問題を解く。その後、解答合わせをして、間違えた所などを確認する。そして、時には解説や全訳などにも目を通す。たいていの場合、これでよしとして、次の問題に進む。しかし、これだけで1題を仕上げたとするにはもったいない。なぜなら、設問該当箇所以外にも入試で不可欠な表現や構造があちこちに出てきているのが普通だからである。

本書は、1つの英文を学習することによって3倍もの学習効果が上げられるように工夫した。この点が本書の最大の特長である。解説を読むのは必要だが、解説を読んだだけでは何を知らないなければならないのか、何が重要なのか、どう問われるのかがわからないことがよくある。漫然と解説を読むのではなく、何が重要で、何を学習して身に付けるべきかを知っていれば学習効果が2倍にも、3倍にも上がる。したがって、本書では、「実力アップ問題」という追加の問題を付けて、同じ英文の中でポイントになると思われる箇所をすべて設問にした。これらの設問を解くことによって、他に英文を3題くらいやった分の効果が期待できる。

本書の使い方

学習法の1例を挙げよう。

ステップ1 「実戦問題」に取り組む。

- ① 実戦問題を解く(30-45分が目安)
きき：だらだらやらない
きき：延長するとしてもせいぜい10分程度
- ② 答え合わせをする
- ③ 「解説」・「各段落の訳」を読む

この手順で、最後の問題10までやってしまう。

ステップ2 次に、「実力アップ問題」に進む。

- ① 実力アップ問題の問題1を解く
- ② 答え合わせをする
- ③ 「解説」を読む

ステップ3 次に、もう一度「実戦問題」に戻る。

- ① 問題1の英文を声に出して一気に最後まで読む
- ② 問題1の解説の「語句」・「構造」を確認する
きき：覚える必要のあるものは覚えてしまう
- ③ 以下同じようにして、問題10までやる
- ④ 最後に、重要と思うこと、疑問に思うことがあれば、自分の今後の課題としてノートなどにメモしておくとい

なお、復習は自分なりに工夫すべきである。たとえば、自分で穴埋め問題にしたり、要約問題にしたり、語彙力チェック問題にしたりすることもできる。1つの英文をいろいろな角度から料理すれば、学習効果を少なくとも3倍は上げるようにできるはずである。



目次

	実戦 問題	実力アップ 問題
問題1 私が作家になっただきさつ	8	112
問題2 外国語を学ぶのに最もよい時期はいつか ..	17	115
問題3 どうすれば他の人を自分の思い通りに	25	119
動かせるか		
問題4 脳と睡眠の関連について	35	122
問題5 携帯電話に関するマナーの行方	43	125
問題6 言語の優劣	56	130
問題7 ある女性が有資格のトロンボーン奏者	69	137
として認められるまで		
問題8 ファッションの歴史	80	141
問題9 日米の文化における建前	91	144
問題10 時間とは何か	101	147

2 外国語を学ぶのに最もよい時期はいつか

■解答■ 解答・解説を確認したら、実力アップ問題にチャレンジ！ 問題冊 P.47

問1 人々は、1つの特徴を欠いていても、別の特徴に大きく頼ることによって、また自分の弱点を補うために自分の強みを目立たせることによって、欠いている特徴を補うことができる。

問2 ほとんどの大人は、間違うのではないか、自分の言いたいことが伝わらないのではないか、あるいはこっけいなほど無能に見えるのを恐れて、自ら練習する機会をがまんしてしまうことも多い。

問3 自分たちが受け入れることにした国の言語を読まずに話せるようになること。

問4 幼児期を過ぎてからスポーツを始めた人が強い選手になるのはよくあることではなく、例外的だということ。(49字)

問5

1. 記憶力が優れている。(10字)
2. 情報を効率よく整理できる。(13字)
3. 集中力をより長く持続できる。(14字)
4. 学習の習慣がある。(9字)
5. 複雑な知的作業を処理できる。(14字)
6. 意欲がある。(6字)
7. 正確な文法と適切な語彙に敏感である。(18字)

■解説■

問1 People can make up for the absence of one trait by relying more heavily on another and by highlighting their strengths to make up for their weaknesses.

□make up for A「Aを補う」 □the absence of A「Aがないこと」

□one trait「1つの特徴」 □rely on A「Aに依存する」 another = another trait

□highlight O「Oを強調する・Oを際立たせる」

□their strengths「彼らの強み」 ↔ their weaknesses

問2 they often deny themselves opportunities to practice for fear of making mistakes, of not getting their message across, or of appearing ridiculously incompetent

2 外国語を学ぶのに最もよい時期はいつか

■解答■

問1 語学を学ぶ場合に、これこそが上手に語学を勉強する人であるというような決まり切った型はないということ。

問2 4

問3 compensate for

問4 接続詞

問5 なるほど～だが・確かに～だが

問6 大人よりも少しでもうまく

問7 Moreover / What's more / Besides / Furthermore / Additionally / Also のうちいずれか3つ。

問8 is correct, is appropriate

問9 本物の発音を身につける

問10 彼らが受け入れた国・彼らが自分の国として受け入れることにした国・自分の国として選んだ国

問11 ある意味で

問12 若いうちに始める・若くして始める

問13 全体として考えると・総合すれば

■解説■

問1 **a stereotype** は、「決まり切った型・固定観念」という意味である。したがって、下線部を訳せば、「優れた語学学習者」の決まり切った型などない」となる。ということは、語学を勉強する場合、こういうタイプの人の方がうまくなるということがあるわけではないということを知りたいのである。

問2 **traits** は、「特色・特性・特徴」という意味である。1～3も似たような意味で使われる。4. quantities は「量」という意味で全く異なるので、4が正解である。

問3 **make up for** は、「～を補う・償う」という意味なので、**compensate for** で言い換えられる。ただし、日常的な英語では **make up for** を使う